

かれんと

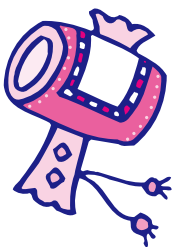
No.43

2013.9.25

Current:カレント
時代の流れあるいは
新しい潮流

誰もが馴染みのある昔ばなし。幼い頃から読んで親しみ、大人になってからは子に聞かせ、私たちはその身近な物語から、人に優しくする心や、社会理念などを学びます。しかし、そこには「こうあるべきだ」という特有の思い込みも存在しています。

今回は、『モモタロー・ノー・リターン&サルカニ・バイオレンス』という本を題材にして、昔ばなしの中にある「当たり前」が、本当に当たり前なことなのかを考えてみます。



主な内容

P1~3

- ▶ 「枠組み」を外すと、
世界も変わる
- ・モモタロー・ノー・リターン
- ・一寸(ちょっと)ちゃんがゆく
- ・「枠組み」って何?
- ・奥山和弘さんへのインタビュー

P4

- ▶ 鹿沼市より
- ・セミナー開催
- ・「かれんと」編集員&セミナー
運営委員募集のお知らせ
- ▶ お気に入りBook
- ・おおきな木
- ▶ 一口メモ
- ・3年育休
- ▶ 編集後記

男女共同参画社会は、男性自身の生き方にもかわるものです。

この本の著者、奥山和弘さんの、男性の視点からのメッセージを取り上げました。

*「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

— 鹿沼市 —

『モモタロー・ノー・リターン・&サルカニ・バイオレンス』 奥山和弘 著

日本の昔話をモチーフに、男女共同参画やジェンダー、子育て、DVなどの現代的なテーマを分かりやすく解説しようとしたものです。本来の昔話と比較し、それぞれの「気づき」を見つけてみましょう。

桃太郎 あらすじ

昔々あるところに、お爺さんとお婆さんが住んでいました。お爺さんは山へ柴刈りに、お婆さんは川へ洗濯に出かけました。川で洗濯をしていたお婆さんは桃を拾い、中から出てきたのは元気な男の子。桃太郎と名付けます。成長した桃太郎は、村に悪さをしにきた鬼を成敗しに行きました。宝をどっさり持ち帰り、お爺さんとお婆さんと幸せに暮らしました。



「モモタロー・ノー・リターン」

昔、あるところに子どものいない老夫婦が暮らしていました。ところが、ある日お婆さんが、「いつもいつも川で洗濯ばかり！私は洗濯するために生まれてきたのではございません。」と言い出したため、お馴染みの昔話は、ちょっと変わった展開になります。

そして、成長した桃子は鬼が島に向かいます。鬼を攻めることなく、仲間たちと協力し、支えられながら、鬼との話し合い・同意によつて共存を成功させました。



しぶしぶ柴刈りと洗濯の仕事を交換し、冷たい水と想像以上の重労働をばやきながら川で洗濯をしていたお爺さん。そこへ、やはり大きな桃が流れてきました。でも、中から出てきたのは女の子。桃子と名付けられます。しかし、思いがけず授かった子どもの面倒は誰がみるのでしょうか。お婆さんだつてお爺さんと同じ、妊娠・出産を経験したわけではありませんし、最初から赤ん坊の「育て方」を知っているわけでもないのです。二人はお互いに行けることをしながら、大切に桃子を育てていきました。

私たちは、先人の話や周りの人の言葉を通して無意識のうちに男性的・女性的行動パターンを刷り込まれています。それが良いか悪いか考える前に、その通りに生きようとしてしまいます。桃子のお話の中には、今まで「当たり前」と思っていたことを「あれ？」と考えさせてくれる場面が多くあります。

桃太郎には、桃太郎が書かれた時代の背景があり、桃子には、現代の私たちの考え方が反映されていると思います。産業・生活体系が変化した今、私たちの男女のとらえ方も変化させる必要があるのかも知れません。

近年よく耳にすることになった男女共同参画とは、決して女性を優先することではなく、女性が「男並み」に働く必要性を説いているものでもありません。「女だから」「男だから」といった、性別にとらわれた行動や思考の限定を取り除いていくことにあります。

家庭内外の仕事の分担、育児の分担、地域・社会におけるあらゆる分野で、性別にかかわらず誰もが快く生き方を選択できる、そんな社会を目指していきたいと思えます。

(編集員 山本 愛)

「枠組み」って何？

私たちには、無意識のうちに刷り込まれた男女のイメージがあります。*「妊娠出産の可能性がある」といった生物学的特徴から、「女性」育児や家事に向いている。

*「握力などが強い」といった平均や傾向から、「男性」強い泣かない。

これらのイメージが、いわゆる男女とはこういうものだという「枠組み」です。

時代の流れとともに、「枠組み」も変わります。かつて、職場では男性の補助的作業が多かった女性の仕事ですが、今では女性の管理職も少しずつ増えてきました。

私たちも性別に関係なく「枠組み」にとられない「意識」を養うことが、必要だと感じました。

(編集員 高橋和子)



「奥山和弘さん」にインタビュー

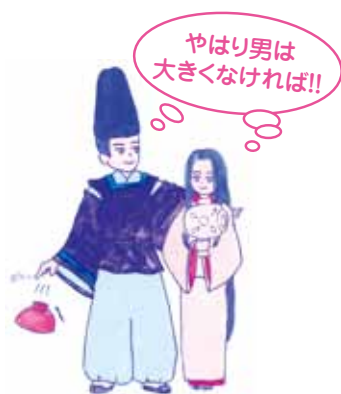
Q. 奥山さんは、教育委員会で男女共同参画の啓発を担当されたことをきっかけに、個人的に啓発活動を続けておられますが、枠組みを外したことで、ご自身はどう変わりましたか？

A. 「男らしく」なくてもいいんだ。自分分は自分、という自己肯定感のよくなものが生まれました。

『一寸法師』を外すと、世界も変わる

一寸法師 あらすじ

昔々、子供のない老夫婦に、一寸しかない男の子が生まれました。一寸法師と名付けられた男の子は、武士になるため京へ修行に行き、そこで姫と出会います。姫をさらおうとした鬼を一寸法師が退治し、鬼が忘れていった打出の小づちで大きくなった一寸法師は、姫と幸せに暮らしました。



「一寸ちゃんがゆく」

連れ添って二十年、子供ができないということまで辛い思いをしていた夫婦がおりました。

ある日二人は神社で赤ん坊を拾い、大明と名付け、大切に育てます。

大明は心の優しい男の子に成長しますが、背が低いために村の仲間から「一寸ちゃん」と呼ばれ、いじめられ、傷ついて里を出ます。



旅の途中に出会った姫君は、背がとても高い、凛とした女性でした。いつしかお互いが必要とするようになっていた二人に気付いた姫君の父親は、「男は大きく、強くなければならない」という思い込みが強く、一寸ちゃんの背が低いことがどうしても許せません。そこで、『打出の小づち』で一寸ちゃんの背を無理やり伸ばそうとしました。そこで一寸ちゃんと言ったことは…。

「姫は、小さい私をそのまま愛してくれました。私は大きい姫が好きなのです。今のままでいいのです。今のままでいいのです。」



一寸ちゃんは両親を呼び寄せ、姫と幸せに暮らしたそうです。



(編集員 石川さやか)

男は大きく、強い方がいいという前提で物語が作られている一寸法師。
対照的に小さくて優しい一寸ちゃんは、自分自身を受け入れ、姫にも受け入れられたことで、生きやすく、幸せになることができました。
本を読むと、深くうなずいたり、心がスツツと軽くなったり、クスツと笑ったり。また、作者が男性なので、男性目線での気づきも素直に入ってくるのが魅力です。
女性問題もいじめの問題も、差別の本質は自分に理解できないものを排除する点にあります。思い込みの枠をはずして、多様性を尊重すれば、だれもが自分らしく幸せに生きられるというメッセージです。

Q. 『モモタロー…』を執筆されてから16年になりますが、社会の流れはどう変わったと感じていますか？

A. 若い人たちの間では、本の中の「お婆さん」の言っていることや、桃子の行動に「それって当たり前でしょ？」と感じる人たちが増えてきていると思います。少しずつ、しかし確実に、多様性が尊重される社会に変化していると感じています。

Q. 「男女共同参画」という言葉だけを聞くと難しくとらえてしまう人が多いように思いますが、どう思いますか？

A. 確かに言葉は固いですね。この言葉をかみ砕いて、丁寧に説明することが大切です。男女共同参画が、一人一人の生き方に関わることで、いかに豊かな人生が待っているのかを伝えていきたいと考えています。

奥山和弘氏 略歴

一九五四年静岡県藤枝市生まれ。金沢大学文学部卒。元静岡県立吉原高等学校校長。県教育委員会事務局に勤務した際に男女共同参画の啓発を担当したことを契機に、個人活動として講演執筆等続ける。

**セミナー
受講風景**

平成25年度 男女共同参画セミナーinかぬま(全6回)開催 テーマ 次世代につなぐ参画の輪(人権・収納・防災に着目)



セミナー第1・2・3回、開催(多くの方が受講されました。)

- 第1回講師 鈴木節也さん「一人ひとりが楽しく生活するには」
- 第2回講師 ノルウェー研修参加者グループ「ノルウェーから学ぶ、次世代へのメッセージ」
- 第3回講師 斉藤真弓さん「賢く整理収納、ハッピーライフ」

セミナー第4回・5回は受講可能です! ぜひお申込みください。(☎63-8352)

第4回 11月13日(水) 講師 宗片恵美子さん

特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事
「これからの防災～なぜ女性の視点が必要か」

第5回 11月19日(火) 講師 奥山和弘さん

モーターロー・ノー・リターン&サルカニ・バイオレンス 著者
「『枠組み』を外すと、世界も変わる」

(第6回は、申込み多数により締め切りました。)

【会場】市民情報センター 2階子育て情報室 PM 1:30～3:30

募集します

*わたしたちと一緒に、市の男女共同参画に向けた活動を行ってみませんか?
笑顔あふれるまちをめざして楽しみながら活動しましょう!

申込、お問い合わせは 人権推進課男女共同参画係 ☎0289-63-8352

★かれんと編集員募集 ★セミナー運営委員募集…H26.4～H28.3(任期2年)

市内在住で、募集時20歳以上の人。男女共同参画社会づくりに意欲的に取り組み、会議等に参加可能な人。

ひとくちメモ



「3年育休」

現在、育児休業は原則として一年となっている。「女性が働き続けられる社会」を目指すため、3歳になるまでは男女が共に子育てに専念でき、その後、しっかりと職場に復帰できるように、経済三団体に、自主的に「3年育休」の推進を依頼するとともに、政府の総合的な支援を表明。

(4月19日、安倍総理「成長戦略スピーチ」首相官邸ホームページより)

編集後記



知らないうちに、私たちの価値観や概念に大きな影響を与えている刷り込みという名の「枠」。

その枠から抜け出せず、ときに私たちは、小さい世界で苦しんでいることがあるのかもしれない。枠を外すために、まずは、その枠の正体を知ることが必要であり、今号がそのきっかけになれば良いと思います。

(編集長 福田万里子)

お気に入りBOOK



おおきな木

著者 シェル・シルヴァスタイン
翻訳 村上春樹
出版社 あすなろ書房



おおきな木がありました。大好きな少年のために、葉っぱを、木陰を、果実を与えます。月日が流れ、少年がまた何かをねだりに来ても、ただひたすら与え続けます。

このおおきな木が、少年に与える続ける愛の受け止め方は読む人によって様々です。感動したり、腹を立てたり、誰かの事を思い出したり…。物語は人の心を写す鏡のようなものです。あなたの心の中には、何が残りましたか?

*鹿沼市立図書館で借りられます。